

ロシア為替週報

2021年8月2日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉

(7月24日～7月30日)

USD/RUB: 72.660～74.272 (注1)

過去1週間のロシア・ルーブル相場は、上昇。ただし、対ドルでの上昇幅と比較すると、対ユーロ、対円での上昇幅はほんの僅かで(それでも上昇には違いなかったが)、対ドルでのルーブル上昇も、ドル安の色彩が濃かったことが伺われた。ロシア中銀による、23日の+100b.p.利上げは、ナビウリナ総裁が予告した「+25～100b.p.(6月28日)」の上限だったものの、週次CPIの上振れ/高止まりなどを背景に、直前までに市場は+100b.p.の織り込みを進めており、結果として「予想通り」の決定と受け止められた。週明け26日、調整的な下押しで滑り出したルーブルは、ほどなく上昇基調を回復したが、前後してルーブル建ロシア国債(OFZ)はほぼ一貫して上昇。ルーブル上昇も、利上げを好感したというよりは、「利上げ打ち止めの近さ」を好感した値動きのように思われた。並行して原油が堅調を維持したこともルーブル下支え要因にはなったであろう。29日以降、OFZが頭打ちになったにもかかわらず、特に対ドルでのルーブル上昇が加速したのは、28日の米連銀公開市場委員会後のパウエル議長発言を受けたドル安と言えた。同議長発言は、「予想よりも金融緩和撤回に消極的」と受け止められようだが、前後の米長短金利は概ね横ばいで、そう受け止めたのは通貨市場だけだったようにも感じられた。

〈過去1週間に発表された主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
7/28	16:00	失業率	6月	4.8%	4.8%	4.9%
	16:00	小売売上高(前年比)	6月	+10.9%	+11.9%	+27.2%
	16:00	実質賃金(前年比)	5月	+3.3%	+5.0%	+7.8%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

〈向こう1週間の見通し〉

(7月31日～8月6日)

USD/RUB: 72.40～73.40

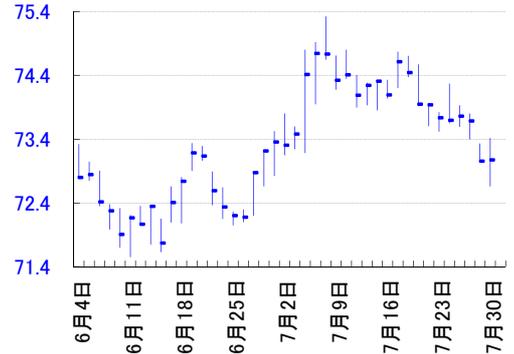
向こう1週間のロシア・ルーブル相場は、堅調気味の横ばいを予想。上述の通り、足元ルーブル高はドル安の色彩が濃く、ルーブルに過度に強気になるのは気乗りしない。通貨市場は28日のパウエル議長発言を「金融緩和撤回に消極的」と読んだが、ドル安に表れたほど、他の金融資産(株式、商品、短期金利など)の反応は大きくなかった。議長が鳩派的だったと言うよりは、ドルが売られたから鳩派的だったと解釈した感が拭えず、取りも直さずそれは、市場(特に通貨市場)が、足元物価動向などを背景に、もっと鷹派的な発言(注2)を期待していた事実の裏返しであろう。市場が期待し、議長が否定する展開が今後も続く可能性は高く、市場にはドルを買い上げたい圧力が常に燃り続けるのではなかろうか。29日に発表された米第2四半期GDP速報値が市場予想を下回ったことも、「金融緩和撤回(=金融引き締め)は遠退いた」との読みで、(ドル安の他に)株高や原油高を招いたというのが、景気が低迷したおかげで株や原油が買われるというもおかしな話ではないか。それに、当該指標の個人消費や価格指数などの詳細は、標題指数とは全く異なるインフレ圧力の存在を示していた。OFZが堅調で、とりわけ、「夏枯れ」と言われる動意に乏しい局面を前に、高利回り資産が魅力的なのもわかるが、中央銀行が100b.p.も利上げをし、追加利上げを予告する局面で、国債の堅調(利回り低下)がこのまま続くとも考えるのにも無理を感じる。人は見たいものを見、聞きたいことを聞くもので、理屈抜きに、売りたいから売り、買いたいから買うのは相場の常だが、問題は、それが相場のあやとして一時的な値動きにとどまるのか、それとも相場の地合として足元方向感を形作るかの判断ということになる。それがわからないからとりあえず「横ばい」を中心に見るわけだが、何故「堅調気味」かと言うと、足元ルーブル短期金利の上昇ぶりに、少なくとも現時点でルーブルの流動性が逼迫している事実だけは確実に読み取れるからだ。

〈向こう1週間に発表予定の主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/4-8/10		国民福祉基金(USD)	7月			187.6bn
8/5	16:00	CPI(前年比)	7月		+6.6%	+6.5%
8/6	13:00	外貨準備高(USD)	7月		597.5bn	591.5bn

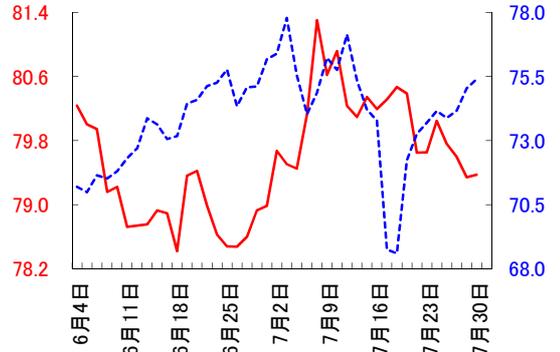
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/RUBの推移(日足/ロンドン7:00～17:00)

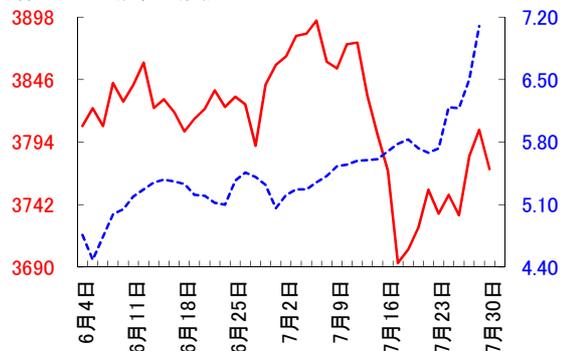


株ルーブル/バスケット推移(ロシア中銀公示)

原油価格推移(ブレント直物)



株式/金利相場の推移(MOEX指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1週間物入札金利		6.50%
成長率(GDP/前年比)	Q1	-0.7%
失業率	6月	4.8%
消費者物価(前年比)	6月	+6.5%
小売売上高(前年比)	6月	+10.9%
鉱工業生産(前年比)	6月	+10.4%
貿易収支(USD)	5月	+10.2bn

(注1) 30日につけたルーブル高値(72.660)は外れ値のようにも見たが、どこまでを「正当」な出合いとするか(72.75～72.81あたりのどこか?)は判然としなかった

(注2) 例えばテーパリング開始時期を示唆するような

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。